

### (1) 目的

- ・在宅医療・介護連携の推進に向けた基礎資料とするため、医療機関及び介護事業所を対象に、在宅医療・在宅介護に関する運営体制や提供サービスの状況、並びに各機関間の連携状況や課題を把握する。
- ・調査結果に基づき、これまでの取組を検証するとともに、2040年に高齢者数がピークを迎える社会情勢を見据え、持続可能な支援体制の構築に資する今後の施策検討に活用する。

※前回実施：令和4年度

※集計結果は、令和8年度に改訂予定の「静岡市健康長寿のまちづくり計画」にも活用するほか、市HPにて公開予定。

### (2) 調査対象

- ・調査票1：病院(24)、医科診療所(有床・無床／小児科・企業内又は施設内診療所除く) (439)
- ・調査票2：歯科診療所(340)、薬局(415)
- ・調査票3：訪問看護ステーション(94)、定期巡回・随時対応型訪問介護看護(6)、看護小規模多機能型居宅介護(20)、訪問リハビリテーション(18)
- ・調査票4：訪問介護(166)、訪問入浴介護(12)
- ・調査票5：居宅介護支援事業所(241)
- ・調査票6：通所リハビリテーション(42)、通所介護(認知症対応型含む) (312)

※病院・医科診療所・歯科診療所数はR6.10.1時点、薬局数はR7.6.3時点、介護事業所数はR7.5.1時点(休止中除く)

### (3) 調査項目(案)

- ・在宅医療・介護サービスの実施状況
- ・医療・介護連携の実施状況
- ・医療・介護・福祉スーパーバイザーについて
- ・情報共有ツールについて
- ・終末期医療について 等

### (4) スケジュール

- ・～8月 企画・情報共有部会中心に調査内容の検討、調査会社と契約
- ・9～1月 調査実施、回収(今回はオンライン回答も可能とする)、集計、分析
- ・2～3月 企画・情報共有部会及び在宅医療・介護連携協議会にて調査結果を報告

## 4 在宅医療・介護の提供と連携に関する実態調査

### (5) 庁内他課調査結果の補完的活用

・在宅医療・介護連携の実態を多角的に把握するため、今年度、以下の調査結果も参考とする。

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
目的	社会参加状況や地域課題の把握	在宅生活継続や介護者の就労継続に有効な介護サービスのあり方検討
対象	65歳以上の元気高齢者～要支援2まで・10,000人	65歳以上で在宅介護を受けている方とその介護者・2,000人
担当課	高齢者福祉課	介護保険課

・上記の調査には例年、「最期を迎えたい場所」や「在宅限界点に影響を与える要因」等に関する設問が含まれており、その結果については本調査の参考資料として活用する。

### (6) 医療・介護関連データの補完的活用

・アンケート調査は現場の主観的な評価や認識を把握できる一方、サービス提供の実態を的確に捉えるには、客観的なデータ活用も有効であるため、調査結果の補完として、以下のデータを参考資料として活用予定。

・活用を予定している主なデータ

- ①市が閲覧可能な医療・介護関連データ（国保・後期・介護）
- ②国公開データ（NDBオープンデータ、人口動態調査、医療情報ネット（ナビィ）等）
- ③国・県等が実施した類似調査の結果等

・分析を予定している内容（案）

- ①在宅医療の患者実績データ分析（患者数、実績回数、介護サービスとの併用状況等）
- ②入退院時の連携状況（加算取得状況等）
- ③医療・介護資源の状況等

# 1 在宅医療・介護の提供と連携に関する実態調査

## (7) 前回調査（令和4年度）からの主な変更点

### ①今回追加予定の項目（計2問）

#### 【独居高齢者の増加への対応】

理由：生産年齢人口の減少や生涯未婚率の上昇に伴い、独居高齢者の増加が見込まれ、在宅での看取りを取り巻く環境は今後さらに深刻化していくことが予想されるため

質問	回答
<p>1 看取る家族がいない独居高齢者の増加が見込まれる中で、地域において優先的に取り組むべきとお考えの事項について、選択してください。（複数選択可）</p>	<p>1 見守りや声掛け等、日常生活を支える地域支援体制の整備                  2 在宅看取りが可能な施設（有料老人ホーム等）の整備                  3 死後対応も含めた多職種連携体制の構築                  4 地域全体でACPを進める取組                  5 自治体や専門職による死後事務支援の体制整備                  6 その他（ ）</p>

#### 【エンディングノートについて】

理由：令和5年度から静岡市にて作成しているエンディングノートの有効性を確認するため

質問	回答
<p>2 静岡市が作成しているエンディングノートについて、該当するものを選択してください。（複数選択可）</p>	<p>1 市民向けの周知や配布を強化してほしい                  2 内容がわかりやすく、使いやすい                  3 記載内容を充実してほしい項目がある（具体的な項目： ）                  4 修正してほしい項目がある（具体的な項目： ）                  5 書き方が分かりにくく、活用しにくい                  6 市販されているエンディングノートもあり、市独自で作成する必要はない                  7 市がエンディングノートを作成していることを知らなかった                  8 作成していることは知っているが、内容は把握していない                  9 その他（ ）</p>

# 1 在宅医療・介護の提供と連携に関する実態調査

## ②今回削除予定の項目（計△7問）

### 【所在地の区】（△1問）

理由：別の質問で所在地の包括圏域を尋ねており、区の把握は包括圏域の回答で把握可能であるため  
 ※包括圏域がわからない機関用に町名との対応表を添付予定。

質問	回答
1 貴機関の所在地はどこの区ですか。（1つ選択）	1 葵区      2 駿河区      3 清水区

### 【コロナ禍における多職種連携】（△2問）

理由：令和5年5月に第5類感染症に移行し、社会的にも平時対応へと転換されているため

質問	回答
2 貴機関は、コロナ禍において入院から在宅への移行に係る退院前カンファレンスに参加したことがありますか。ある場合、どのような手段での参加が主でしたか。（1つ選択）	1 参加したことがある ⇒ 1 対面   2 電話   3 紙面 4 オンライン開催   5 その他（ ） 2 参加したことがない
3 貴機関は、コロナ禍においてサービス担当者会議に参加したことがありますか。ある場合、どのような手段での参加が主でしたか。（1つ選択）	1 参加したことがある ⇒ 1 対面   2 電話   3 紙面 4 オンライン開催   5 その他（ ） 2 参加したことがない

# 1 在宅医療・介護の提供と連携に関する実態調査

## 【認知症関連】（△4問）

理由：当該質問は、令和2年10月の「かけこまち七間町」開設を踏まえ、認知度把握等のため令和4年度調査で新規追加したが、令和7年度は限られた質問数の中で在宅医療・介護連携に関する質問に重点化するため

	質問	回答
4	貴機関で、認知症（若年性を含む）の診断、治療を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。（1つ選択）	1 行っている 2 行っていない
5	（上記で「1行っている」と答えた機関のみ） 現在、対応している認知症の人の年代別人数を記入してください。 （令和4年8月1日現在の患者数（実数））	合計（実数）：（ ）人 うち65歳未満（ ）人 うち65歳以上（ ）人
6	認知症対策を進めていくうえで、静岡市はどのようなことに重点を置いていくべきだと考えますか。あてはまるものをすべて選択してください。（複数回答）	1 主治医から専門医療機関へのスムーズな連携体制づくり 2 認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療機関につなげる取組み 3 医療と介護・行政との連携強化 4 医師の認知症対応力を上げる取組み 5 認知症グループホーム等の整備 6 介護サービスにあたる専門職の質の向上 7 家族の精神的負担を緩和する取組み 8 家族を対象にした、介護やコミュニケーション方法等の研修会の開催 9 見守りボランティアなど、在宅での生活を支える取組み 10 成年後見制度など、認知症の人の権利や財産を守る制度の充実 11 徘徊や緊急時への対応 12 認知症への正しい理解を広める取組み 13 認知症の人が活動する場づくり、社会参加の支援 14 65歳未満で発症する若年性認知症患者への支援 15 虐待を防止する制度や取組み 16 その他（ ）
7	次に掲載する認知症対策推進のための関係機関があることを知っていますか。あてはまる数字を1つ選んでください。（1つ選択）	1 認知症疾患医療センター（知っている／知らない） 2 かけこまち七間町（知っている／知らない） 3 静岡県若年性認知症相談窓口（知っている／知らない） 4 各地域包括支援センター（知っている／知らない）

# 1 在宅医療・介護の提供と連携に関する実態調査

## ③今回変更予定の項目（計4問）

### 【職種ごとの従事者数】

理由：全調査対象に17の職種別人数を調査していたが、明らかに該当しない職種等も含まれており、調査対象ごとと実態に即した職種に限定し、回答負担を軽減する（前回回答が5機関以下の職種を除いた）

#### 前回（令和4年度）

貴機関における職種別の従事者数を記入してください。  
※複数の資格のある従事者については、主たる職種1つに記入してください。また常勤、非常勤は問いません。

1 職種	2 従事者	3 従事者のうち在宅医療を実施している者
① 医師	( )人	( )人
② 歯科医師	( )人	( )人
③ 薬剤師	( )人	( )人
④ 保健師	( )人	( )人
⑤ 看護師	( )人	( )人
⑥ 准看護師	( )人	( )人
⑦ 歯科衛生士	( )人	( )人
⑧ 理学療法士	( )人	( )人
⑨ 作業療法士	( )人	( )人
⑩ 言語聴覚士	( )人	( )人
⑪ 栄養士	( )人	( )人
⑫ 社会福祉士	( )人	( )人
⑬ 介護福祉士	( )人	( )人
⑭ 介護支援専門員	( )人	( )人
⑮ ホームヘルパー	( )人	( )人
⑯ 介護職員	( )人	( )人
⑰ 事務職	( )人	( )人
⑱ その他	( )人	( )人
( )	( )人	( )人
( )	( )人	( )人
( )	( )人	( )人

#### 今回（令和7年度）

貴機関における職種別の従事者数を記入してください。  
※全従事者数及び従事者のうち在宅医療を実施している者の数  
※複数の資格のある従事者については、主たる職種1つに記入してください。また常勤、非常勤は問いません。

#### 調査票1（病院、医科診療所）

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、准看護師、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、社会福祉士、介護福祉士、介護職員、事務職

#### 調査票2（歯科診療所、薬局）

歯科医師、薬剤師、歯科衛生士、栄養士、事務職

#### 調査票3（訪問看護ステーション等）

医師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、介護支援専門員、介護職員、事務職

#### 調査票4（訪問介護、訪問入浴介護）

看護師、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員、ホームヘルパー、介護職員、事務職

#### 帳票5（居宅介護支援事業所）

看護師、准看護師、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、事務職

#### 調査票6（通所リハビリテーション、通所介護）

医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、ホームヘルパー、介護職員、事務職

# 1 在宅医療・介護の提供と連携に関する実態調査

## 【紹介元ごとの患者数・利用者数】（在宅医療実施機関及び介護事業所）

理由：前回の調査において、回答負担の大きさを指摘する声が複数寄せられたほか、回答率も回答いただいた機関のうち5割程度にとどまったことから、回答負担を軽減する

### 前回（令和4年度）

患者（利用者）の紹介元ごとに、患者（利用者）数を記入してください。  
※令和4年5月1日～7月31日の3か月間

	患者の紹介元機関名	患者数（実数）
①	病院	（ ）人
②	医科診療所（有床）	（ ）人
③	医科診療所（無床）	（ ）人
④	歯科診療所	（ ）人
⑤	薬局	（ ）人
⑥	訪問看護ステーション	（ ）人
⑦	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	（ ）人
⑧	看護小規模多機能型居宅介護事業所	（ ）人
⑨	居宅介護支援事業所	（ ）人
⑩	訪問介護事業所	（ ）人
⑪	通所介護事業所	（ ）人
⑫	訪問入浴介護事業所	（ ）人
⑬	訪問リハビリテーション事業所	（ ）人
⑭	通所リハビリテーション事業所	（ ）人
⑮	地域包括支援センター	（ ）人
⑯	行政機関	（ ）人
⑰	本人・家族	（ ）人
⑱	民生委員等	（ ）人
⑲	その他（ ）	（ ）人

### 今回（令和7年度）

最近（直近3か月程度）、新たに在宅医療（介護サービス利用）を開始した患者（利用者）の紹介元について、特に多いと感じるものを上位3つまでお選びください。  
※新規患者（利用者）が少ない場合は、直近1年等の範囲でも構いません。

- 1 病院
- 2 医科診療所（有床）
- 3 医科診療所（無床）
- 4 歯科診療所
- 5 薬局
- 6 訪問看護ステーション
- 7 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所
- 8 看護小規模多機能型居宅介護事業所
- 9 居宅介護支援事業所
- 10 訪問介護事業所
- 11 通所介護事業所
- 12 訪問入浴介護事業所
- 13 訪問リハビリテーション事業所
- 14 通所リハビリテーション事業所
- 15 地域包括支援センター
- 16 行政機関
- 17 本人・家族
- 18 民生委員等
- 19 その他（ ）

# 1 在宅医療・介護の提供と連携に関する実態調査

【連携がうまくいっていない理由】（医療・介護連携が全体的にうまくいっていないと回答した機関のみ）

理由：現場努力だけの問題ではなく、構造的な課題もあると想定されるため、選択肢を追加する

前回（令和4年度）	今回（令和7年度）
<p>医療・介護連携でうまくいっていない理由について、あてはまるものをすべて選んでください。（複数選択可）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 他の職種と顔の見える関係が作れていない</li> <li>2 他の職種の業務内容が共有できていない</li> <li>3 情報交換する会議などの機会がない</li> <li>4 情報交換する時間がない</li> <li>5 病変の急変時における連携体制が不十分</li> <li>6 人材が育成されていない</li> <li>7 どの機関が主導してくれるかはっきりしていない</li> <li>8 諸制度が複雑で連携する機関がわかりにくい</li> <li>9 関係職種に連携の必要性が理解されていない</li> <li>10 情報交換する方法がわからない</li> <li>11 必要な研修を受講する機会がない</li> <li>12 その他（ ）</li> </ol>	<p>医療・介護連携でうまくいっていないと思う理由を選択してください。（複数選択可）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 他の職種と顔の見える関係が作れていない</li> <li>2 他の職種の業務内容が共有できていない</li> <li>3 情報交換する会議などの機会がない</li> <li>4 情報交換する時間がない</li> <li>5 病変の急変時における連携体制が不十分</li> <li>6 人材が育成されていない</li> <li>7 どの機関が主導してくれるかはっきりしていない</li> <li>8 諸制度が複雑で連携する機関がわかりにくい</li> <li>9 関係職種に連携の必要性が理解されていない</li> <li>10 情報交換する方法がわからない</li> <li>11 必要な研修を受講する機会がない</li> <li><b>12 同居家族や支援者が少なく、在宅療養が困難</b></li> <li><b>13 在宅療養を担う専門職等の資源が不足している</b></li> <li><b>14 地域全体で在宅療養に対する理解や関心が低い</b></li> <li>15 その他（ ）</li> </ol>

# 1 在宅医療・介護の提供と連携に関する実態調査

【在宅医療を実施していない理由】（在宅医療を実施していない機関のみ）

理由：「負担」の内容が具体的ではないため、選択肢を追加する

前回（令和4年度）	今回（令和7年度）
在宅医療を実施していない理由は何ですか。（複数選択可）	在宅医療を実施していない理由は何ですか。（複数選択可）
1 実施するためのスタッフがいらない	1 実施するためのスタッフがいらない
2 患者からのニーズがない	2 患者からのニーズがない
3 採算が取れない	3 採算が取れない
4 必要性を感じない	4 必要性を感じない
5 関心がない	5 関心がない
6 時間が確保できない	6 時間が確保できない
7 専門領域以外の対応が困難	7 専門領域以外の対応が困難
8 経験がない・不足している	8 経験がない・不足している
<b>9 負担が大きい</b>	<b>9 書類作成や制度対応などの負担が大きい</b>
10 その他（ ）	<b>10 患者や家族対応などの負担が大きい</b>
	<b>11 移動や訪問などの体力的な負担が大きい</b>
	12 その他（ ）

# 1 在宅医療・介護の提供と連携に関する実態調査

## (8) 質問数 (予定)

	令和4年度	今回追加	今回削除	令和7年度
調査票1：病院、医科診療所（有床・無床）	45	+ 2	△7	<b>40</b>
調査票2：歯科診療所、薬局	36	+ 2	△7	<b>31</b>
調査票3：訪問看護ステーション、 定期巡回・随時対応型訪問介護看護、 看護小規模多機能型居宅介護、 訪問リハビリテーション	39	+ 2	△7	<b>34</b>
調査票4：訪問介護、訪問入浴介護	34	+ 2	△7	<b>29</b>
調査票5：居宅介護支援事業所	43	+ 2	△7	<b>38</b>
調査票6：通所リハビリテーション、 通所介護（認知症対応型含む）	34	+ 2	△7	<b>29</b>

# 1 在宅医療・介護の提供と連携に関する実態調査

## (9) 訪問診療利用者の介護サービス（今回調査対象のサービス）利用状況

(単位：人)

訪問診療利用者 (R7.2利用分)	介護サービス利用無	介護サービス利用有							計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
5,693	361	98	102	1,042	1,150	1,122	1,043	775	5,332



	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
<b>訪問診療</b>	98	102	1,042	1,150	1,122	1,043	775	5,332
訪問介護	19	20	190	231	245	235	259	1,199
訪問入浴介護	0	0	4	19	42	73	113	251
訪問看護（介護のみ）	3	21	155	188	206	215	228	1,016
訪問リハビリテーション	0	2	8	11	12	20	41	94
通所介護（認知症対応型含む）	7	15	164	233	209	180	161	969
通所リハビリテーション	4	4	15	28	25	30	28	134
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	10	12	10	9	4	45
看護小規模多機能型居宅介護	0	0	26	27	26	38	40	157

※出典：R7.2利用分の診療報酬・介護報酬のレセプト集計

※介護サービスは重複有

※その他介護サービスは省略